

## 本当の自由とは何か

### 育成のサッカーは教育的であること

自由でありたい、自由にプレーしたいと誰もが思っていることでしょう。選手が自分の意見を押し殺しコーチの言うことに「はい」としか言えないのは自由ではありません。また、選手が好き勝手にプレーするのも自由ではなく、無秩序と言うのではないのでしょうか。コーチも選手も本音を言い、その中でチームのために個人のやるべき役割ができる、それがチームとしてのルールになっていくことが大切だと思います。言い換えればルールがあるから自由なのであり、そのルールは一人ひとりの意見が議論され、方向性を共有してできあがるものであると思います。初めに意見を言える選手を育てましょう。そして、その意見が自分のためなのかチームのためなのかを考えられ、相手と論理的に議論できるようになることが必要です。それが個人として自立することであり、自立した選手が集まらないと心身ともに闘えるチームにはならないでしょう。選手を自立させるためにはコーチの役割は多岐にわたりますが、子どもを大人に導くためには必要不可欠なことと言えるでしょう。

～ U - 14年代のコーチに求められるもの ( N T C U - 14 2008 )

長い間サッカーに接しているとサッカーをする人はどちらかというとなんなら多いと感じるときがあります。(仕事柄「自由」という言葉には非常に抵抗があり、福沢諭吉さんもっとよい字をあててくれていたら...と思うことがあります。諭吉さんが「liberty」を訳すときに仏教用語の「自由」をあてたようですが、仏教用語の「自由」には「勝手気まま」という意味があり、英語の「freedom」に近い(?)ようです。これだけ「自由」が大切にされる時代になるとみんなが「勝手気まま」になるのは当然のような気がします。諭吉さんも当初は「御免」を考えていたらしいのですが、偉い漢語学者さんによれば「道理」というのが最も意味が近いようです。)

子どもの中には、サッカーは「自由(?)」でいいと思っている選手が多くいるようです。ドリブルしたときにはドリブル、パスしたいときにはパス、疲れたら守備はしない「自由(?)」にプレーしている選手がいます。これまでのコーチから、サッカーを教えてもらえなかったのだと思ってしまいます。プレーは一瞬ですから、自分のプレーがよい選択だったかどうかを見極めることは、コーチがサッカーをよく知っていない難しいことです。さらに選手にとって都合の良いことに、その一瞬のプレーに 22 人も参加しているので、サボったり、判断を間違ってもたった一人しかいないコーチにばれることはありません。これが野球だったら、一つひとつのプレーにサインが出るのでミスもすぐに分かります。

サッカーの楽しさは一つひとつの判断が選手に委ねられていることです。講習会でプレーしているときに初めてあった人から、何気なくみえるけど多くの選択の幅がもてるようなパスをもらったときにはドキッとしてしまいます。その瞬間、自分は本当に「自由」にプレーできるのですが、パスサーに試されている(「お前はこのパスを受けてどれだけのプレーができる?」って、そのパスが言うんですよ!?)ように感じてしまいます。元々自分はサッカーが下手くそですから、失敗しないように中途半端な選択をしたときには、怖くてパスサーの顔が見られません。(本当に一番怖いのは、周りからトライしない選手だって思われることなんです。サッカーなんて失敗がつきものなんですから、トライしなくちゃダメなんです。ただし、いつ、どこで、誰が、何を、どうして、どうやって失敗したかは言い訳を考えておく必要があるけど、でも、言い訳は簡単、「自分にきちんとした技術を身につけさせてくれなかったコーチが悪いから、トライできない。」って。)

選手が本当に自由にプレーするために、コーチの役割は果てしなく続きます。